

活動見える化プログラムとは

地域循環共生圏やSDGsを念頭に置いた取組は、実践している協働取組がどのように貢献しているかを認識することが重要

活動見える化プログラム

多角的な地域の活動における地域循環共生圏やSDGsへの貢献を可視化するための分析手法

目的

対象となる活動がどのように連携して行われているか、地域循環共生圏やSDGsにどのように貢献しているか、など「可視化」することで活動当事者が内容を認識する。

- ・ 様々な活動に対して誰が協働しているのか
- ・ その活動が環境、経済、社会にどう貢献しているのか
- ・ その活動がどのSDGsに貢献するのか

複数の活動を
まとめて表示

活動見える化プログラム分析

分析表の入力1: 00入力様式

- ・分析表に活動内容を入力します。
- ・EXCELファイル「00入力様式」を使います。
- ・「経緯・評価分析」シート、「活動1現状評価」～「活動5現状評価」の6シートから構成されています。
- ・最初に取り組内容を“5つ”以内の活動に分けてください(一つだけでも構いません)。

EXCELファイル「00入力様式」

「経緯・評価分析」シート

分析表の入力シートはこちら
[Excelファイル\(107KB\)](#)

「活動1現状評価」～
「活動5現状評価」シート

活動見える化プログラム分析

分析表の入力2:「経緯・評価分析」シート

- ・最初に「経緯・評価分析」シートの“緑の網掛けセル”に入力します。
- ・2行目から15行目「協働取組に至る経緯」は過去を振り返るためのものですので、現状や将来の分析には必要ありません。入力しなくても分析は進められます。
- ・「現状活動評価」の活動1～活動5の欄に入力します(空欄があっても構いません)。

「経緯・評価分析」シート

現在の取組に至った経緯やきっかけ、概要を入力します。

分けた活動それぞれについて、「名称」、「対象課題」、「活動内容」、「予想活動成果」、「連携先」、「活動に対する現状の評価と課題」を入力します。

全体経緯と活動内容

協働取組に至る経緯		テーマ				
		窓口団体	団体名	住所	電話番号	担当者
協働取組に至る内容	活動No.	活動①	活動②	活動③	活動④	活動⑤
成果	時期					
	名称					
	対象課題					
	取組背景					
	取組内容					
	取組成果					
	連携先					
経緯のまとめ						

鍵となった出来事、きっかけ (活動推進のわけ)	
----------------------------	--

現状活動評価		テーマ				
		窓口団体	団体名	住所	電話番号	担当者
分析期間 年月～年月						

現状の活動内容と成果		活動No.	活動1	活動2	活動3	活動4	活動5
	名称						
	対象課題						
	活動内容						
	予想活動成果						
	連携先						
活動に対する現状の評価と課題							

きっかけの前になんか活動を行っていたかを入力する欄です。分析チャートそのものには関係ありません。入力しなくても結構です。

緑色の欄のみ入力してください。(他の部分を変更すると分析ができなくなります)

分析表入力例

「経緯・評価分析」シート

この例では活動を3つに分けて記入しています。

全体経緯と活動内容		テーマ	おわせSEAモデル					
協働取組に至る経緯		窓口団体	団体名					
			住所					
協働取組に至る内容と成果		活動No.	活動①	活動②	活動③	活動④	活動⑤	
			名称					
			対象課題					
			取組背景					
			取組内容					
経緯のまとめ								

鍵となった出来事、きっかけ(活動推進のわけ) 中部電力の尾鷲三田火力発電所が平成30年12月にて発電設備が廃止され、更なる尾鷲市における産業の空洞化や人口の減少が想定されるとともに、廃止された尾鷲三田火力発電所の跡地を活用した地域活性化施策の実現が課題となった。そこで尾鷲市、尾鷲商工会議所および中部電力が、尾鷲三田火力発電所の跡地を「新たなエネルギー」と「豊かな自然の力」で、産業、観光、市民サービスを融合した拠点として、人々が集い活気あふれる「ふるさと尾鷲」を目指すこととした。

現状活動評価		テーマ	おわせSEAモデル	
現状活動評価		窓口団体	団体名	おわせSEAモデル協議会
			住所	尾鷲市役所
			電話番号	
			担当者	市長 加藤 千速(幹事)

分析期間		2020年4月～2021年3月(2020年9月時点予測)					
現状の活動内容と成果		活動No.	活動1	活動2	活動3	活動4	活動5
名称		活動1	活動2	活動3	活動4	活動5	
対象課題		既存の資源を有効に活用し、持続可能な事業展開を図る	地産地消の木材を燃料とし林業を活性化させ、雇用の促進につなげることで地域の活性化を図る	循環型エネルギーを活用した新産業を創出し、経済活性化や雇用拡大を図る			
活動内容		広大な発電所跡地をハブとし、既存の資源(海・山・川・歴史的遺産など)を活用したアクティビティ事業(カヤック・ウォーキング・サイクリングなど)を推進することにより、域内はもちろん、広域連携を見据えた上で持続可能な地域循環型社会の構築を目指す。	東紀州地域の森林資源を活用した林業活性化や、間伐材など未利用材の資源化による森林保全などの林業振興をはじめ、地域の雇用経済に対する多くの効果が期待される木質バイオマス事業を行うとともに、木質バイオマス発電から排出される熱やCO2など未利用エネルギーの有効活用し、脱炭素社会、循環型社会を目指す。	広大な火力発電所跡地に、木質バイオマス発電所から排出される熱エネルギーを活用した循環型産業として、アグリ事業(植物工場等)・アーク事業(陸上養殖)を誘致し、地域経済の活性化や雇用拡大を目指す。			
予想活動成果		人(材)交流・育成、雇用創出、お金(経済)循環、地域連携の強化	森林資源の循環、お金(経済)循環、雇用・産業創出、未利用エネルギーの循環	(新たな)生産物(商品)・雇用の創出、お金(経済)の循環、新事業ノウハウ蓄積			
連携先		市政策調整課、市商工観光課、市教育委員会生涯学習課、市政策調整課、尾鷲商工会議所P室、市水産農林課、中部電力尾鷲創生推進G、中部プラントサービス、森林組合おわせ、三重県森林組合連合会、三重県木材組合連合会、三重TLO、百五総合研究所、テクノ中部、尾鷲物産、県農林水産部、県雇用経済部、県水産研、三重大学地域創生推進チーム	市政策調整課、市商工観光課、市教育委員会生涯学習課、市政策調整課、尾鷲商工会議所P室、市水産農林課、中部電力尾鷲創生推進G、中部プラントサービス、森林組合おわせ、三重県森林組合連合会、三重県木材組合連合会、三重TLO、百五総合研究所、テクノ中部、尾鷲物産、県農林水産部、県雇用経済部、県水産研、三重大学地域創生推進チーム	市政策調整課、市商工観光課、市教育委員会生涯学習課、市政策調整課、尾鷲商工会議所P室、市水産農林課、中部電力尾鷲創生推進G、中部プラントサービス、森林組合おわせ、三重県森林組合連合会、三重県木材組合連合会、三重TLO、百五総合研究所、テクノ中部、尾鷲物産、県農林水産部、県雇用経済部、県水産研、三重大学地域創生推進チーム			

活動に対する現状の評価と課題		現状	課題
		・ガイドを束ねることが出来る組織の構築・ガイドの育成・体験メニュー開発・収益的事業の構築・広域連携による事業展開	・尾鷲周辺地域はバイオマスが乱立しており、燃料となる材の調達に厳しい。・小規模バイオマス発電であるため事業性が厳しい。・林業従事者の高齢化、人手不足

分析チャートそのものには関わりません。この例では入力していません。

記入しやすいように適宜行の高さは変更してください。

出力すると、活動経緯から現在の活動内容を一覧で眺めることができます。

活動見える化プログラム分析

分析表の入力:「活動〇現状評価」シート

- 「経緯・評価分析」シートに入力した内容は「活動〇現状評価」シートに反映されます。
- 「活動〇現状評価」シートのそれぞれの“緑の網掛けセル”に入力します。
- それぞれの「活動〇」の内容を振り返り、「環境」、「社会」、「経済」ごとにどんな形で貢献しているか入力します(具体的に)。これが地域循環共生圏への貢献と考えられます。
- 「環境」、「社会」、「経済」の記載内容を参考に、SDGsに関連していると思われるゴールに●を付けます。これらが活動が貢献するSDGsの各ゴールと考えられます。

「経緯・評価分析」シートへの入力が反映されます。

活動内容から「環境」、「社会」、「経済」への貢献を入力します。

関連するSDGsに●を付けます。

全体テーマ	0
きっかけ (活動推進のわけ)	0
活動名	-
窓口団体	団体名
	住所
	電話番号
	担当者
活動1	
対象課題	0
活動内容	0
活動成果(予想)	0
連携先	0
現状の評価と課題	0



地域循環共生圏への貢献 (どのような形で貢献しているか具体的に記入)	【環境への貢献】 (環境負荷の減少、資源循環への貢献、自然環境保全、脱炭素貢献、など)	【社会への貢献】 (人のつながり、地域教育、文化の向上、人口流出の抑制、QOL増大、など)	【経済への貢献】 (新規産業の育成、資金流出の防止、地域内経済循環、地域内雇用創出など)
SDGsへの貢献 (該当すれば〇、もしくは貢献とその内容を直接記入)			
1 貧困をなくそう			
2 飢餓をゼロに			
3 すべての人に健康と福祉を			
4 質の高い教育をみんなに			
5 ジェンダー平等を實現しよう			
6 安全な水とトイレを世界中に			
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに			
8 働きがいも経済成長も			
9 産業と技術革新の基盤をつくろう			
10 人や国の不平等をなくそう			
11 住み続けられるまちづくりを			
12 つくる責任つかう責任			
13 気候変動に具体的な対策を			
14 海の豊かさを守ろう			
15 陸の豊かさも守ろう			
16 平和と公正をすべての人に			
17 パートナリーシップで目標を達成しよう			

「活動〇現状評価」シート

対象課題	既存の資源を有効に活用し、持続可能な事業展開を図る
活動内容	広大な発電所跡地をハブとし、既存の資源(海・山・川・歴史的遺産など)を活用したアクティビティ事業(カヤック・ウォーキング・サイクリングなど)を推進することにより、域内はもちろん、広域連携を見据えた上で持続可能な地域循環型社会の構築を目指す。
活動成果(予想)	人(材)交流・育成、雇用創出、お金(経済)循環、地域間連携の強化
連携先	市政策調整課、市商工観光課、市教育委員会生涯学習課、市政策調整課、尾鷲商工会議所P室、市水産農林課、中部電力尾鷲創生推進G、中部プラントサービス、森林組合おわせ、三重県森林組合連合会、三重県木材組合連合会、三重TLO、百五総合研究所、テクノ中部、尾鷲物産、県農林水産部、県雇用経済部、県水産研、三重大学地域創生推進チーム
現状の評価と課題	・ガイドを束ねることが出来る組織の構築・ガイドの育成・体験メニュー開発・収益的事業の構築・広域連携による事業展開



	【環境への貢献】 (環境負荷の減少、資源循環への貢献、自然環境保全、脱炭素貢献、など)	【社会への貢献】 (人のつながり、地域教育、文化の向上、人口流出の抑制、QOL増大、など)	【経済への貢献】 (新規産業の育成、資金流出の防止、地域内経済循環、地域内雇用創出など)
地域循環共生圏への貢献 (どのような形で貢献しているか具体的に記入)	アクティビティツアーのための自然資本保全意識向上、ESD活用の推進による参加者の環境保全意識の向上	地域文化保全意識の向上、地域間・関係SHの連携強化、関係者を通じた人材育成	アクティビティ事業など新規観光産業の育成による経済活性化と雇用拡大の推進
SDGsへの貢献 (該当すれば〇、もしくは貢献とその内容を直接記入)	↓	↓	↓
1 貧困をなくそう			
2 飢餓をゼロに			
3 すべての人に健康と福祉を			
4 質の高い教育をみんなに	○	○	
5 ジェンダー平等を實現しよう			
6 安全な水とトイレを世界中に			
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに			
8 働きがいも経済成長も			○
9 産業と技術革新の基盤をつくろう			○
10 人や国の不平等をなくそう			
11 住み続けられるまちづくりを		○	
12 つくる責任つかう責任			
13 気候変動に具体的な対策を			
14 海の豊かさを守ろう	○		
15 陸の豊かさも守ろう	○		
16 平和と公正をすべての人に			
17 パートナリーシップで目標を達成しよう		○	

見やすいように
適宜行の高さは
変更してください。

分けた活動それぞれについて、内容から地域循環共生圏への「環境」、「社会」、「経済」への貢献とSDGsの関わりを一覧で眺めることができます。

・作成例を参考に見やすいように工夫して表現してください。特に決まりはないので、使いやすいように作っていただいで構いません。

分析チャート作成例

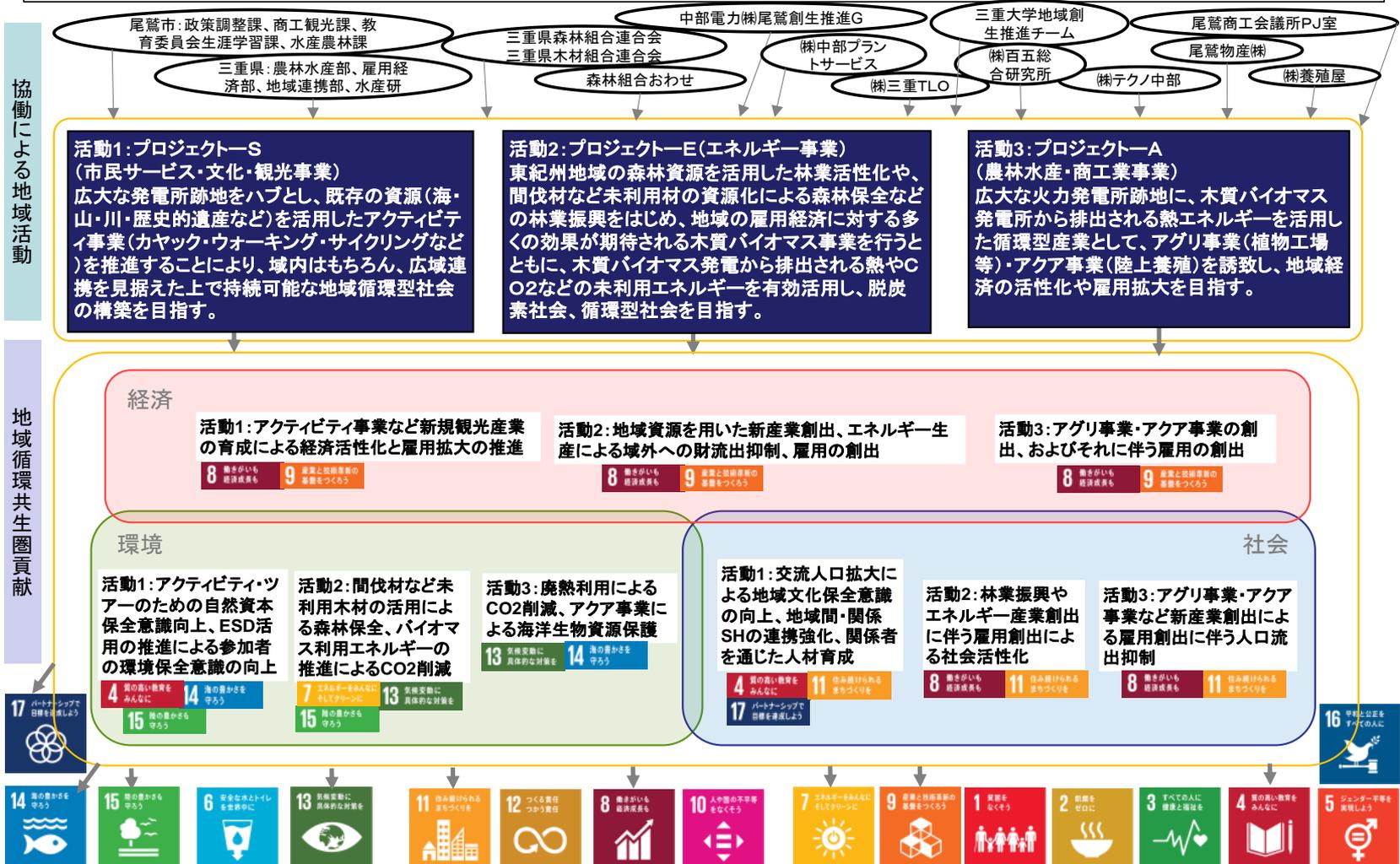
活動の意義(評価)分析チャート
200915分析案

おわせSEAモデル

2020年4月時点

おわせSEAモデル

中部電力の尾鷲三田火力発電所が平成30年12月に発電設備が廃止され、更なる尾鷲市における産業の空洞化や人口の減少が想定されるとともに、廃止された尾鷲三田火力発電所の跡地を活用した地域活性化施策の実現が課題となった。そこで尾鷲市、尾鷲商工会議所および中部電力が、尾鷲三田火力発電所の跡地を「新たなエネルギー」と「豊かな自然の力」で、産業、観光、市民サービスを融合した拠点として、人々が集い活気あふれる「ふるさと尾鷲」を目指すこととした。



EPO中部:原(2020)